四国遍路

岩波写真文庫　176

四国遍路
176

岩波写真文庫 176 四国遍路

編集 岩波書店編集部
写真 岩波映画製作所

四国を四悪趣（地獄、餓鬼、畜生、修羅）になぞらえ、ここに八十八趣の煩悩に因んで八十八ヵ所の寺を造ったのは弘法大師だということになっている。印度から持ち帰った釈迦説法の霊場の土が八十八ヵ所に埋められてあるといい、寺々を巡拝すれば、ちょうど印度の霊地に詣でたと同じように悪趣煩悩から逃がれ、浄土に往生できるというのが、所謂「四国霊場巡り」である。高野山に真言密教の本営を開くべく努力していた大師に、八十八ヵ所開基のような小願の余裕はなかったはずだと詮索する人もいるが、ともかく金剛杖をつき、鈴をふり、指さした手型を浮彫にした道標から道標へ、霊場ごとに御詠歌をうたい、納め札を奉納し、大師の霊験に輿をやりつつ、南国の山野を旅すれば、大抵の病気や悩みは消え失せるかも知れぬ。巡拝バスもある今では十五日の旅だが、昔は五、六十日の行程だった。

目 次

定価100円 1956年1月25日 第1刷発行 1960年8月20日 第5刷発行 © 発行者 岩波雄二郎 印刷者 米屋勇 印刷所 東京都港区芝浦2ノ1 半七写真印刷工業株式会社 製本所 永井製本所 発行所 東京都千代田区神田一ツ橋2ノ3 株式会社岩波書店

四国遍路地図

0 5 10 20 30 40 km

① 札所　卍 番外札所　〜 遍路道

1 霊山寺　2 極楽寺　3 金泉寺　4 大日寺　5 地蔵寺　6 安楽寺　7 十楽寺　8 熊谷寺　9 法輪寺　10 切幡寺　11 藤井寺　12 焼山寺　13 大日寺　14 常楽寺
15 国分寺　16 観音寺　17 井戸寺　18 恩山寺　19 立江寺　20 鶴林寺　21 太竜寺　22 平等寺　23 薬王寺　24 最御崎寺　25 津照寺　26 金剛頂寺　27 神峰寺　28 大日寺
29 国分寺　30 安楽寺　31 竹林寺　32 禅師峰寺　33 雪蹊寺　34 種間寺　35 清滝寺　36 青竜寺　37 岩本寺　38 金剛福寺　39 延光寺　40 観自在寺　41 竜光寺　42 仏木寺
43 明石寺　44 大宝寺　45 岩屋寺　46 浄瑠璃寺　47 八坂寺　48 西林寺　49 浄土寺　50 繁多寺　51 石手寺　52 太山寺　53 円明寺　54 延命寺　55 南光坊　56 泰山寺
57 栄福寺　58 仙遊寺　59 国分寺　60 横峰寺　61 香園寺　62 宝寿寺　63 吉祥寺　64 前神寺
65 三角寺　66 雲辺寺　67 大興寺　68 神恵院　69 観音寺　70 本山寺　71 弥谷寺　72 曼荼羅寺
73 出釈迦寺　74 甲山寺　75 善通寺　76 金倉寺　77 道隆寺　78 郷照寺　79 高照院　80 国分寺
81 白峰寺　82 根香寺　83 一ノ宮寺　84 屋島寺　85 八栗寺　86 志度寺　87 長尾寺　88 大窪寺

四国八十八ヵ所は阿波から始まり、土佐、伊予、讃岐と巡って結願となる。阿波の国は発心の道場、二十三ヵ所、五十七里三町（一里＝四十八町）。土佐の国は修行の道場、十六ヵ所、九十二里十町（一里＝五十町）。伊予の国は菩提の道場、二十六ヵ所九十七里十四町（一里＝三十六町）。讃岐の国は涅槃の道場、二十三ヵ所三十六里三町（一里＝三十六町）となり、合わせて八十八ヵ所三百余里の長旅である。ただし、全部の寺を廻る暇のない人の為には、一国巡り、十ヵ寺巡り、七ヵ寺巡りという便宜もあり、骨の折れる六十番横峰寺等は、前札といって小松の清楽寺で納札をすればよいということもある。年間四十万の参拝者を数える十九番立江寺などは、その六割が十ヵ寺巡りの人だという。さて、一番霊山寺から八十八番大窪寺まで、閏年には逆打ちといって逆の番号順に廻れば、どこかで大師様とすれ違うという信者もいるが、番号順に廻るのが普通である。巡拝者は俗にお遍路さんと呼ばれる。船着き場で整えられる装束は、白衣、手甲、脚絆、草鞋、輪袈裟（織王条）、手には鈴を下げ、金剛杖をつく。杖は大師様として護持する神聖なものだから、宿につけば自分の足より先きに、杖の先、つまり大師の御足を洗う。それから柳行李を肩に、搓箱を首にかける。搓箱には納札が入る。縦五寸、巾二寸の札には、奉納四国八十八ヵ所霊場同行二人とあり、その右に天下太平、左に家内安全、姓名、住所。各霊場の本堂、大師堂に奉納する。白いのが普通だが、二十回以上の巡拝者は赤、三十回以上が無学の白札、五十回以上は無学の金紙。これだけ来れば大師様も御存じというわけなのだろうか。笠の四方には、「迷故三界城　悟故十方空　本来無東西　何処有南北」と書き、唱える名号は「南無大師遍照金剛」。

四国霊場札始め．第一番霊山寺本堂．本尊釈迦如来

第一番　竺和山霊山寺

「霊山の釈迦の御前に巡りきて、
万の罪も消え失せにけり」
（寺ごとに御詠歌がある。一種の和讃）

四国八十八ヵ所のふり出し、大師が止錫霊感により定めた札始め。本式の巡拝は、まず大師が入定した高野山奥之院金剛峰寺に参り、それから大阪、あるいは和歌山から船で四国に渡り、撫養に上陸し、四国第一番奥之院の八葉山東林院（大師が米麦の種を蒔き農作を奨励した所で、俗に種蒔大師という）を拝し、当寺に至るものという。本尊釈迦如来は大師将来の尊像。次へ十二町。仁王門を出て、西へ。

霊山寺多宝塔

霊山寺大師堂．本尊の次に大師を拝む

病苦を去り，よろずの難を除く巡礼へ

第二番極楽寺．難産を助ける子安大師

第二番極楽寺．本堂．本尊阿弥陀如来

第二番　日照山極楽寺

「極楽の弥陀の浄土へ行きたくば、
南無阿弥陀仏、口ぐせにせよ」

大師御巡錫の折、阿弥陀如来の影向を拝したという。次へ二十三町。仁王門手前を山裾にそって右へ。

第三番　亀光山金泉寺

「極楽のたからの池を思えただ、
こがねの泉、すみたたえたる」

巡錫の折、忽然として泉が湧いた。即ち金泉寺という。中古、亀山上皇の信仰厚く、亀光の山号を賜わった。次は愛染院を経て四番へ。

遠くハワイからの寄進

乞食遍路はお遍路めあてに稼いでいる

第三番金泉寺．本尊釈迦如来

本尊に線香，「帰依仏　帰依法　帰依僧」

第四番大日寺．大日如来

第四番寺域は俗塵をはなれること遠く，閑静

第四番　黒巖山大日寺

「ながむれば、月白たえの、夜半なれや、ただくろだにの、すみぞめのそで」

俗に黒谷寺。阿波十七万三千石蜂須賀家の信仰が篤かったという。次は六町うちもどり、更に八町。五百羅漢を経て二町。

第五番　無尽山地蔵寺

「ろくどうの、能化のじぞう大ぼさつ、みちびきたまえ、この世、のちの世」

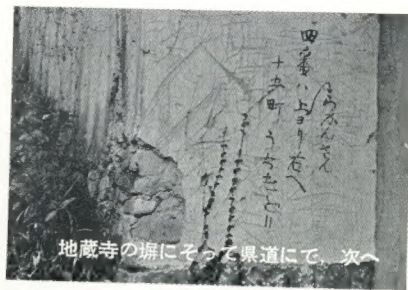
熊野権現に授けられた霊木で大師が一寸八分の本尊地蔵尊を自刻し、後に定宵和尚が二尺七寸の地蔵尊を彫り、本尊を胸に納めたと。県道を右、次へ一里十二町。

十ヵ寺巡りのハイキング

生糸の多産を祈るまじない

この碑を廻れば八十八ヵ寺を巡礼したことになる

第六番安楽寺．左本堂．本尊薬師如来．右大師堂

第五番地蔵寺は第四番と境内続き二町．本尊地蔵菩薩

第六番　温泉山安楽寺

「仮の世に知行争う無益より、安楽国の、守護をのぞめよ」

昔、このあたりから温泉が湧いた。大師は薬師如来を本尊と定めた。如来に厄除法を授けられた大師は、修法を重ね、弓の矢の御難を逃れたという。その身代わりに逆さに植えた松が、境内にあるサカマツ。本堂外陣天井の竜の墨絵は、手を打てば、響くという。次へ十町。本堂の左横を西へ。

脳病快癒を祈る髪の毛とヘアピン

御堂の縁先きに櫛とヘアピンの山

地蔵寺の塀にそって県道にで，次へ

十楽寺へ

講中一同連記の納め札

第七番のある御所村は，土御門上皇の御所があった

第七番　光明山十楽寺（こうみょうざんじゅうらくじ）

「にんげんの、八苦を早く、離れなば、いたらんかたは、くぼん、じゅうらく」

寺号の十楽は、不可思議所信。無有等比仏三昧、不可限量大慈悲、一切諸仏解脱、無有辺際大神通、最極尊重大自在、宏大究竟無量力、離諸智覚寂静、住無礙住恆正定、行無二行不変異。次へ、一里五町。

第七番十楽寺．本堂．本尊阿弥陀如来

熊谷寺多宝塔

第八番熊谷寺．本尊千手観世音菩薩

第八番より県道を右へ，立石を左へ行くと第九番．ここは田圃の中の白壁の寺

第八番　普明山熊谷寺（ふみょうざんくまがいじ）

「薪とり、水くま谷の寺に来て、難行するも、のちの世のため」

大師は熊野権現から黄金像を授かり、一刀三礼（らい）して刻んだ本尊千手観音の胸にこれを納めた。次へ二十町。白壁の寺が第九番。

第九番　正覚山法輪寺（しょうがくざんほうりんじ）

「大乗のひほうもとがも飜えし、転法輪（てんぽうりん）の、縁とこそきけ」

昔は白蛇山法林寺といって、山つきのほうにあったとのこと。仁王門を右へ一里一町で次へ。

御詠歌の声が閑寂をゆさぶる

第九番通夜堂で昼食を終えて

第九番法輪寺．本尊涅槃釈迦如来

お遍路さんたちは小さな門前町の仏具屋で，新しい数珠を求めて，大事そうに行李にしまっていた

第十番　得度山切幡寺

「慾心をただひとすじに切幡寺、のちの世までの障りとぞなる」旅僧（実は大師）に最後の布まで施し、即身成仏した機織老婆の縁起がある。次へ二里十町。吉野川を渡り、山を越え十一番。

第十一番　金剛山藤井寺

「色も香も、無比中道の藤井寺、真如の波の、たたぬ日もなし」大師四十二歳の厄除けに薬師如来を刻み開創したという。大師護摩修行の八畳岩遺跡がある。

第十番切幡寺．本尊千手観世音菩薩

第十番の小さな門前町

第十番は切幡山の中腹，石段の上

吉野川（四国三郎）は土佐山地に発する

吉野川を渡る，阿北平野，八幡町を望む

次へ百二十町、急坂二十四町で長戸庵。峯づたい三十町で柳水庵。一本杉を経、左右内川に降り十八町の登り。遍路一番の難所。男八時間、女九時間かかる。

第十二番　摩盧山焼山寺

「のちの世を思えば苦行焼山寺、死出や三途の難所ありとも」当山は昔一面の火の山だった。役行者が火を伏せ、開山したという。山号の摩盧は梵語で水を表わすという。本尊虚空蔵菩薩。杖杉庵を経て、次へ六里七町。

第十一番藤井寺．本尊薬師如来

第十一番から第十二番の道は峠を二つ越し，谷を二つ渡る難所．便法としてバスで寄居まで，そこから左右内川についてのぼる

息子の位牌をもち，金剛杖を握りしめて

願わくは闇路を照し我等を導き給え

番外杖杉庵は又の名を衛門三郎庵。彼は伊予の豪族に生れ、大師の行乞を追い返すこと数度、罰をうけて八人の子を失い、悔悟して大師の後を追って二十一回目、此所に巡りあって許され、命絶えたという。

第十三番　大栗山大日寺

「阿波国一ノ宮とゆう襷、かけて頼めやこの世後の世」巡錫の大師が大日如来を拝したところ。街道をへだて一ノ宮神社。神仏混淆の名ごり。

第十二番焼山寺．本尊虚空蔵菩薩

第十二番から打ちもどり杖杉庵へ

杖杉庵では衛門三郎の像を拝した

第十三番大日寺．十一面観世音菩薩

第十四番　盛寿山常楽寺

「常楽の岸にはいつか、到らまし、ぐぜいの船に、乗りおくれずば」石段を降り、奥之院の庭を右へ降り、次へ七町。奥之院には杉の立木に彫った生木の地蔵があった。

第十五番　法養山国分寺

「薄く濃くわけわけ色を染ぬれば、るてんしょうじの秋のもみじば」天平九年、聖武天皇が諸国に建てさせた六十六ヵ国国分寺の一つ。聖武天皇、光明皇后の位牌を奉祀するという。次へ十五町で十六番。

第十二番へ急坂．老杉の下を二十五町

第十四番常楽寺．本尊弥勒菩薩

第十五番国分寺．本尊薬師如来

礎石は阿波の国分寺の址という

第十七番井戸寺．本尊薬師如来

第十六番　光耀山観音寺

「忘れども導きたまえ観音寺、西方世界、弥陀の浄土へ」

聖武天皇勅願の道場であった。門を出て左へ五町。大御和神社を曲ると、十八町で十七番。

第十七番　瑠璃山井戸寺

「面影を映してみれば井戸水、結べば胸のあかやおちなん」

天武天皇勅願道場。当地が水に不便なので、大師は一夜にして井戸を掘り、面影を映したという縁起。次へ十五町。

吉野川三角洲上，徳島を過ぎ第十八番

大師は一夜に井戸を掘り姿を映した

面影霊井　第十七番は俗に井戸寺

第十六番観音寺．本尊千手観世音菩薩

第十八番　母養山恩山寺

「子を生めるその父母の恩山寺、訪い難きことはあらじな」

大師幼少のころ当山に修行、母の阿刀も後を追い、剃髪したという。次へ三十町。九ッ橋で白鷺を見ると凶事ありと。

第十九番　橋池山立江寺

「いつかさて西の住居の我立江、弘誓の船に乗りて到らん」

四国霊場のお関所の一。不義の女の髪が鉦緒にまき上げられ、肉ごとぬけた怪談がある。

第十九番立江寺．本尊地蔵菩薩

第十八番恩山寺．本尊薬師如来

第二十番鶴林寺．本尊地蔵菩薩

第十九番から鶴，太竜寺難所を十八町

第二十番　霊鷲山鶴林寺（れいじゅざんかくりんじ）

「茂りつる鶴の林をしるべにて、大師ぞいます、地蔵帝釈（たいしゃく）」大師修行中、雌雄の鶴が地蔵尊を抱き舞い下ったという。十九番から二十二番までは俗に鶴、太竜寺といって、阿波の難所。

第二十一番　舎心山太竜寺（しゃしんざんたいりゅうじ）

「太竜の常にすむぞやげに窟（いわや）、舎心聞持（しゃしんもんじ）はしゅごのためなり」海抜千八百尺。南舎心を下り、竜の窟を拝し、次へ二里二十七町。あとは伊予まで難所はない。

第二十番の下に通夜堂ができた

那賀川の深い谷を隔て太竜山は鶴林山の真正面，大師は鶴林寺を胎蔵界，太竜寺を金剛界とした

第二十番から二十町下って大井の寒村，那賀川の河原

第二十二番　白水山平等寺（はくすいざんびょうどうじ）

「平等にへだてのなきときく時は、あら頼もしき仏とぞ見る」大師曳錫の時、空中に金色の梵字現われ薬師如来の尊像となり、地を打てば乳のような霊水が湧き出たという。次へ五里二十八町。新野町を真直に月夜御水庵を抜け、鉦打大師を拝し土佐街道へ。この辺には倒杉、尻なし貝、ゆるぎ石、笠地蔵など七不思議あり。小野追分を右へゆけば峠越え。左へ行けば海岸廻り。

第二十一番太竜寺．本尊虚空蔵菩薩

第二十二番平等寺．本尊薬師如来

那賀川の渡しを渡ると三十町の上り

蓮華の花　巡礼の功徳に[illegible]

第二十七番神峰寺　十一面観世音菩薩

一人旅も同行二人．お大師様と二人づれ

第二十六番　光明院金剛頂寺

「往生に、望みをかくる極楽の、月のかたむく、西寺のそら」

天狗が大師と問答し足摺岬に遁走したところ。次へ七里二十町。

第二十七番　竹林山神峰寺

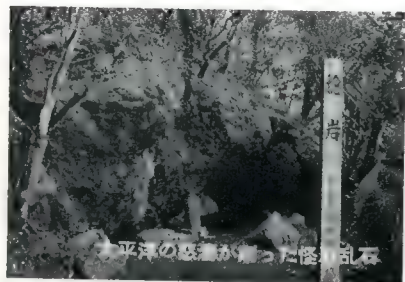
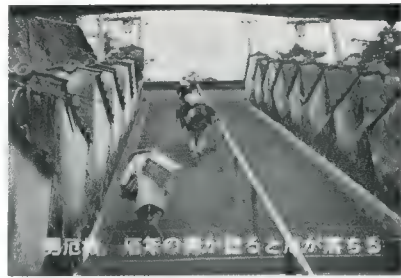
「みほとけのめぐみの心神峰、山もちかいも高きみずおと」

海抜千二百尺。土佐の関所と呼ぶ。左側に神峰神社。農家で食べている貝を乞うて断られた大師がその貝を石とした。貝の化石をみて考えた伝説であろう。

神峰寺の霧は昔悪魔の吐いた毒気という

[illegible]寺さんへの登りは十八町の真っ縦

室戸町　[illegible]　魚の臭

第二十五番津照寺．本尊地蔵菩薩

紀貫之が逗留した室津港を左に見て，室戸の町へ入り，右側の石段を登ると津寺

第二十五番　宝寿山津照寺

「法の船入るか出るかこの津寺、迷うわが身をのせてたまえや」

俗に津寺。隣の一木神社は室戸港の創設者一木政利を祀る。人夫百七十五万人、黄金十万両を費し、築港成就の延宝七年六月自刃し果てた政利。隣接する津呂の港を築き、後に讒を受け不遇の中に死んだ野中兼山。次へ二十五町。最御岬寺の東寺に対し、西寺の名で通る金剛頂寺へ。松並木を右へ二町、四町のぼる。

金剛頂寺の裏にある名僧の供養塔

第二十六番金剛頂寺．本尊薬師如来

室戸町の[illegible]

第三十二番禅師峰寺　十一面観世音菩薩

ここでも本[illegible]前に[illegible]め米を[illegible]える

第三十二番　八葉山禅師峰寺

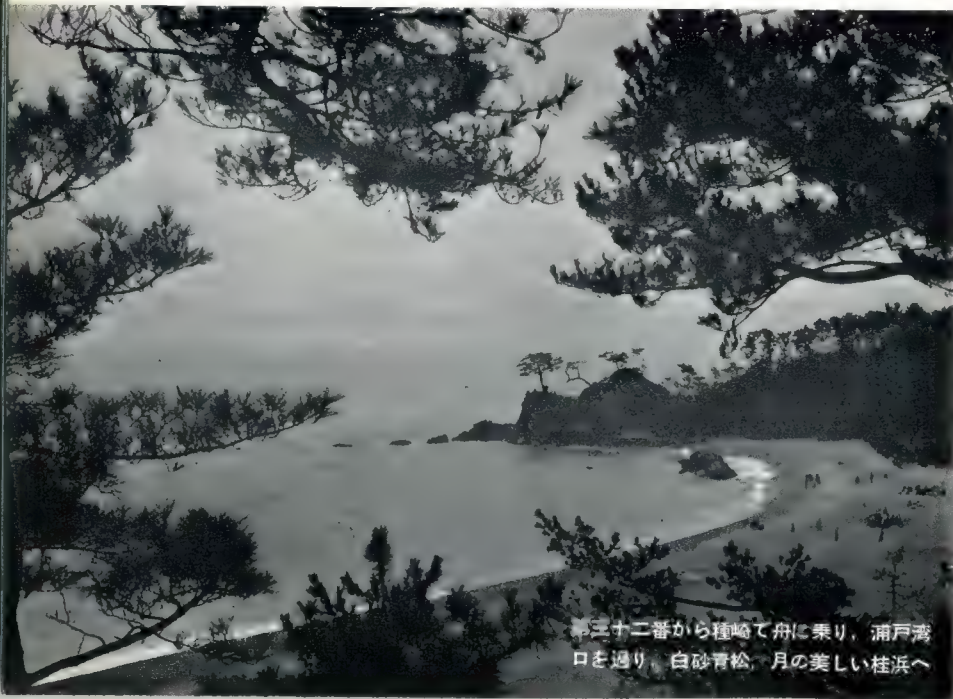
「静かなるわが源の禅師峰寺、浮かぶ心は、法のはやぶね」運慶作という仁王像。芭蕉句碑「木枯に岩吹きとがる杉間かな」。次へ二里。種崎で渡舟。

第三十三番　高福山雪蹊寺

「旅の道うえしも今は高福寺のちのたのしみ、有明の月」長曾我部の菩提寺。朱子学南学派の祖天室は当寺住職。谷時中、小倉三省、野中兼山はその弟子。次へ一里二十五町。

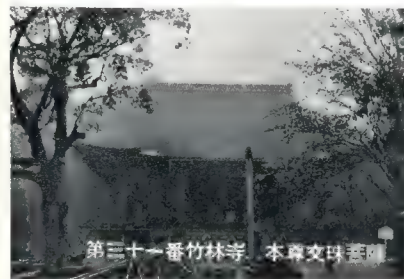
第三十三番[illegible]

第三十二番から種崎で舟に乗り，浦戸湾口を過り，白砂青松，月の美しい桂浜へ

第三十一番からふりかえる．五台山の下は浦戸湾から続く孕湾の水に抱かれ，一面の田[illegible]

第三十一番　五台山竹林寺

「南無文珠三世諸仏の母とき く我も子心乳こそほしけれ」開創行基は支那の五台山を彷彿させる地をこの山に求めた。大師が五峰を五鈷に擬し、独鈷杵を抛つと、岩裂け水が湧いた。独鈷水という。古経巻、古名画、古什器の多いこと県下随一。本尊はじめ十九体尊像はすべて重要文化財。

第三十一番竹林寺，本尊文珠菩薩

眼[illegible]は大師[illegible]さする

第三十五番から浦ノ内湾口を対岸に渡る

第三十五番　医王山清滝寺

「澄む水を汲むは心の清滝寺、波の花ちる、岩の羽ごろも」薬子の乱に連座して皇太子を廃せられた高丘親王が、後に出家して修法したという逆修の塔がある。次へ三里十七町で青竜寺。

第三十六番　独鈷山青竜寺

「わずかなる泉にすめる青竜は、仏法守護の、誓いとぞきく」大師が唐の青竜寺で修行の時、持っていた独鈷を埋めた。本尊は波切不動。船乗の信仰が篤い。

[illegible]内湾口[illegible]ノ渡五町を渡って対岸の[illegible]の[illegible]尻に上り、上り十町[illegible]八町の峠を越し、なお八町ほどゆくと青竜寺

施餓鬼　餓鬼世界に堕した亡者を回向

第三十四番種間寺　本尊薬師如来

[illegible]

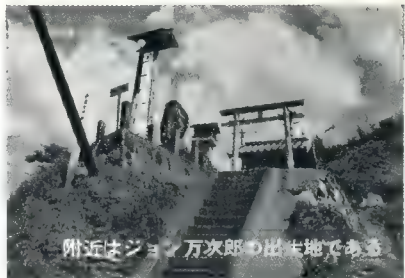
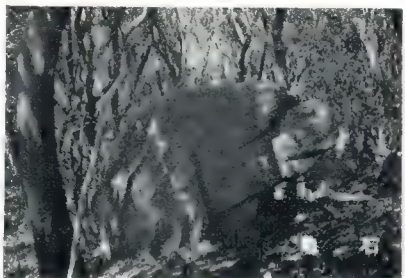
第三十四番　本尾山種間寺

「世中にまける五穀の種間寺、深き如来の、大悲なりけり」大師が唐から持ち帰った五穀の種を初めてここにまいたという。用明天皇の頃、大阪の四天王寺が落成して、百済の仏工、寺匠らが帰国する途中、海が荒れ、秋山郷に寄港して海上安全の仏像を刻み安置した。これが本尊薬師如来という。新川町堤防を上り仁淀川鉄橋を渡り、次へ二里十六町。

[illegible]人の[illegible]　お代を[illegible]

店番のいる売店　キンカン一山十円

附近はジョン万次郎の出[illegible]地である

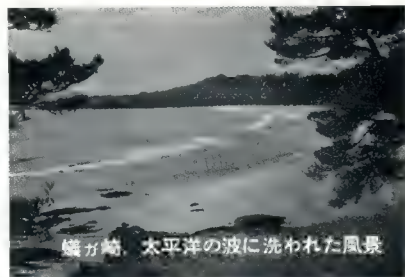
第三十[illegible]岩本寺　[illegible]も荒れている

第三十七番　藤井山岩本寺（ふじいさんいわもとでら）
「六つの塵（ちり）五つの社（やしろ）現わして、ふかき仁井田（にいだ）の神の楽しみ」開創行基が七星に象（かたど）った七寺の一つ、大師が五曜を示す五寺を加え、仁井田十二福寺として十二宮に擬（なぞら）えた星祭道場。

第三十八番　蹉跎山金剛福寺（さださんこんごうふくじ）
「補陀落（ふだらく）やここは岬の船の棹（さお）、とるもすつるも法（のり）の蹉跎山（さだやま）」足摺岬の断崖。金峰上人（きんぽうしょうにん）が悪魔を蹉跎（あしず）りさせたのが山号の縁起。亀呼場（かめよび）等の七不思議。

蹉ガ崎，太平洋の波に洗われた風景

[illegible]，後に大悲の山，前に弘誓（ぐぜい）の海，大師は観世音[illegible]利生[illegible]とし，嵯峨天皇からは「補陀落東門」の勅額をうけた

[illegible]「カメさん[illegible]」

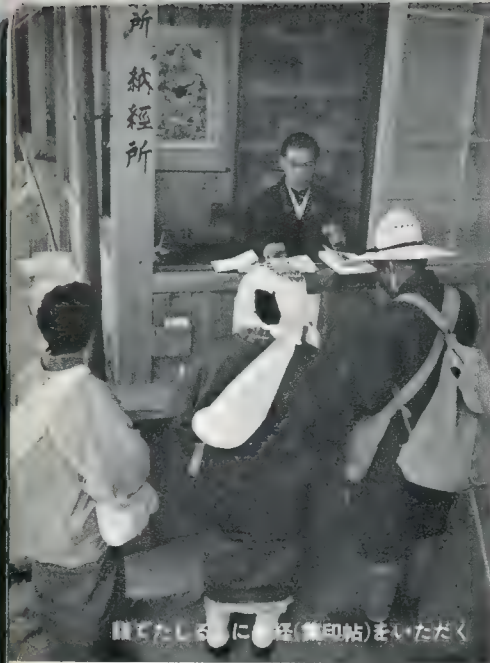
亀　石

三十七番から四十一番までは、札所の間が、近いので十里、遠いのは二十余里。ことに三十七、八番は遍路道二十一里というが、実際は二十四、五里はあろう。女子供は三、四日はかかるという長丁場（ながちょうば）。

第三十九番　赤亀山延光寺（せっきさんえんこうじ）
「南無薬師（なむやくし）諸病悉除（しつじょ）の願なれば、まいる我が身をたすけたまえよ」俗に寺山。本堂わきに亀ノ池。ここに赤い亀がいて竜宮から鐘を運んできたとか。土佐十六番の札所はこれで打上げ。先は伊予へ入る。

第三十八番金剛福寺[illegible]世音[illegible]

金峰上人が悪魔を[illegible]跎りさせたという岬

第三十九番延光寺，本[illegible]如来

[illegible]

第四十番　平常山観自在寺

「心願や自在の春に花咲きて、浮世逃れてすむやけだもの」

平城天皇の勅願所、四国裏関所という。境内に天皇松。寺背の五輪塔は平城天皇陵といい、真如法親王墓所ともいう。

第四十一番　稲荷山竜光寺

「この神は三国流布の密教を、守らせ給う、誓いとぞ聞く」

大師はこの寺を四国の総鎮守とし、稲荷の神に仏法弘布を誓ったという。次へ二十五町。

…大司に和霊神社　伊達十万石…
…で暗殺された附家老山家清兵衛を祀る

第四十二番　一たか山仏木寺

「草も木も、仏になれる仏木寺、なお頼もしき、きちくにんでん」

大師が一老人のひく牛の背に乗ってこの地を通り、楠の梢に一たかの宝玉を発見したところという。本尊霊験として疱瘡よけのほか牛馬の守護をあげているが、伊予の旅には牛を逸することはできない。土地で「突きあい」と呼ぶ闘牛、宇和島祭礼の牛頭神楽獅子「牛鬼」、深浦の「牛塚」などがある。次へ二里二十四町。歯長峠をこえる。

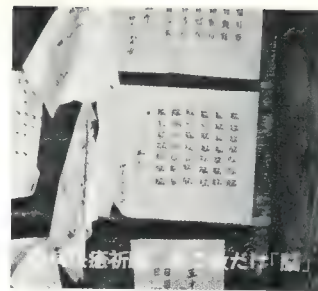
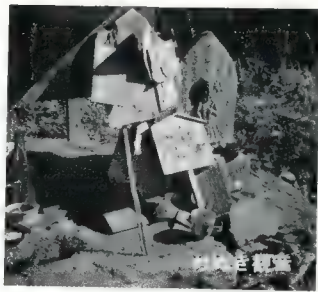
第四十二番仏木寺　本尊大日如来

宇和島から吉田を経，法華津峠にかかる．目の下に法華津の漁村，法華津湾．天正の昔，法華津範延がこのあたりにがんばり，土佐の長曾我部，豊後の大伴と対戦した

[illegible]寺奥院は[illegible]の[illegible]にあった

岩屋寺は八葉蓮華の[illegible]という山々の間隠

[illegible]のお遍路さんは子供づれの[illegible]だった

[illegible]さんは家の仏様を同行していた

第四十三番　源光山明石寺

「聞くならく、千手の誓い不思議には、大磐石も軽く明石」寛永十五年、嵯峨大覚寺宮来錫の折、樹下に時雨があったという時雨桜。次へ二十一里。

第四十四番　菅生山大宝寺

「今の世は大悲の恵み菅生山、遂には弥陀の誓いをぞ待つ」大宝元年、百済の僧が庵を結んだのを開創の縁起とする。お遍路さんは一日三度の托鉢が義務。地元の人も心得て、お布施を恵む。村で布施予算をくんで、村民の経済負担を軽くしているところもある。次へ峠御堂を越し一里十九町。

第四十五番　海岸山岩屋寺

「大聖のいのる力の岩屋寺、石の中にも、極楽ぞある」法華上人修法の地。寺から六町上り、白山権現を祀る巌峰。俗にせりわり。眼下の霧が海を見るよう。即ち山号は海岸。

…雨乞加持の杖ノ淵は西林寺奥院

第四十六番　医王山浄瑠璃寺

「極楽の浄瑠璃世界たくらえば、うくる苦楽は報ならまし」一遍上人、玄賓僧都もかつてここに留錫した。次へ八町。

第四十七番　熊野山八坂寺

「花を見て歌よむ人は八坂寺、讃仏乗の、えんとこそ聞け」大師が坂八ヵ所を開いて再興したという。次へ一里二町。やがて八ッ塚、衛門三郎が大師の怒りにふれ、八日間に八人の子が死んだところ。次へ。

…西林寺の荒れた白壁

その途中の小松に衛門三郎の札始めだという大師堂。これを過ぎて重信川を渡り真直に。

第四十八番　清滝山西林寺

「弥陀仏の世界を訪ね行たくば、西の林の寺にまいれよ」行基開創。東方十四町にあったのを大師が移築したという。門前の田園のなか、奥ノ院には杖ノ淵とよぶ小池がある。かつて大師が旱魃の折、雨乞の加持をして以来、水涸れを見ないという。次へ二十五町。

国からの便り…

第五十番繁多寺　本尊薬師如来

第四十九番浄土寺　本尊釈迦如来

第四十九番　西林山浄土寺

「十悪の我身をすてずその儘に、浄土の寺へ詣りこそすれ」孝謙天皇勅願寺。次へ十五町。

第五十番　東山繁多寺

「万こそ繁多なりとも怠らず、諸病なかれと、望み祈れよ」孝謙天皇の勅願寺。俗に畑寺。一遍上人の修学の地。境内の歓喜天は徳川四代将軍家綱の念持仏三体の内の一つ。八十五番の八栗聖天についで信徒の多い天尊。次へ二十四町。

第五十一番　熊野山石手寺

「西方をよそとは見まじ安養の、寺に詣りてうくる十楽」

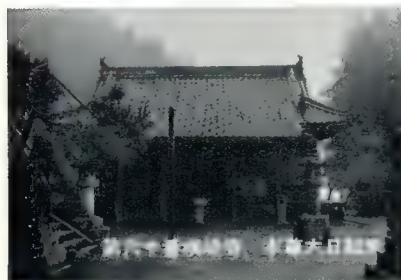
和銅五年、伊予領主越智玉純が白山権現をこの地に勧請、聖武天皇勅願所の伽藍建立。当地の城主河野息利の子息方は衛門三郎の再生、衛門三郎が握って往生した霊石を、掌に入れて誕生したという。これが山号縁起。俗に七ヵ寺詣りというのは、四十六番から五十二番まで、一日の巡拝。

南光坊から西へ県道を[illegible]「へんろ道」の道標に導かれて泰山寺へ

第五十六番　金輪山泰山寺（きんりんざんたいざんじ）

「皆人の詣りてやがて泰山寺、来世の引導、頼みおきつつ」淳和天皇勅願寺。昔は七堂伽藍十坊を備えていたという。次へ二十八町。増水の時は上流の熊橋（とちばし）を渡る。蒼社川（そうじゃ）を渡る。

第五十七番　府頭山栄福寺（ふとうざんえいふくじ）

「この世には弓矢を守る八幡なり、来世は人を救う弥陀佛」俗に八幡宮。神仏混淆時代には山頂に八幡宮があった。本尊は海中より御出現の霊像。

第五十六番泰山寺　本尊地蔵菩薩

第五十七番栄福寺　本尊阿弥陀如来

昔の伽藍は[illegible]兵火に罹り一坊を残す

仙遊寺の佐礼山，仁王門までの三町は[illegible]

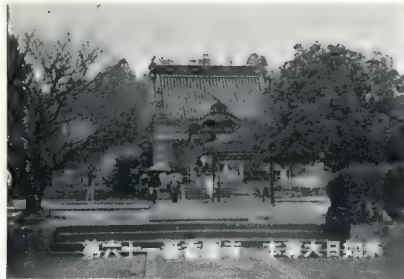
栄福寺より平坦八町，山道が十二町

第五十八番　作礼山仙遊寺（されいざんせんゆうじ）

「立寄りて作礼堂に休みつつ、六字を誦し経をよむべし」昔、阿坊仙人が山を開き、四十年間読経をつづけ、元正天皇の養老二年四月八日に姿を消したというところから、仙遊の寺号がある。天智天皇の勅願で国守越智守興の建立。天皇の守護仏という本尊千手観音は、竜宮から伝わったものと称し、境内の竜燈桜も竜に縁がある。次へ五十三町。

第五十八番仙遊寺　[illegible]

第六十一番香[illegible]寺　本尊大日如来

第六十二番宝[illegible]　十一面観世音菩薩

お遍路さんが寺に泊るのを通夜、通夜する場所を通夜堂という。大きな寺や難所があって、一日で廻りきれない所に通夜堂がある。例えば香園寺は五百人くらいを収容でき、遍路さんに晩飯と朝飯をまかない、弁当をもたせて百五十円である。夜は護摩をたき法話を聞き、南無大師遍照金剛を唱え、細長い布団に何人ももぐりこんで寝る。シラミは大師さまの生まれ変りという。

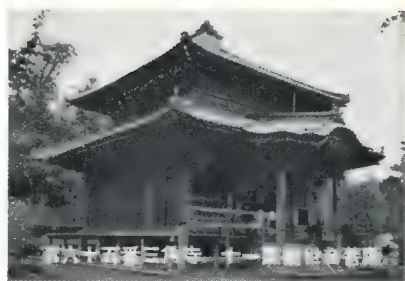
第六十一番　栴檀山香園寺

「後の世を思えば詣れ香園寺、とめてとまらぬ、白滝の水」ここの大師は子安大師とよばれ、安産を願う信者の子安講がある。次へ国道を十二町。

第六十二番　天養山宝寿寺

「五月雨の後に出たる玉井は、しらつゆなるや、一ノ宮川」昔、伊予一ノ宮の別当。難産で悩んでいた国司越智氏夫人を、大師は玉ノ井を汲んで加持したという。次へ十四町。

[illegible]も掛布団も横幅は三間あろう、簀巻にした敷布団と[illegible]とひろげ、みんな勝手な所へもぐりこむ

通夜の[illegible]歌、大師もその師から、光明真言を一百万遍となえることによって、求聞持の悉地が得られると訓された

[illegible]路の枕は[illegible]寝る時[illegible]

[illegible]の通夜堂には三十人の従業員

護摩、智慧の火で煩悩を焼きつくす

食事がすめばお説教，みな五逆[illegible]

阿波と讃岐の国境い、天正の昔、長曽我部元親はここから阿、讃、伊の山河を望み、四国併呑の志を起した。[illegible]八十八ヵ寺の大部分は[illegible]われた

ヘンロコロガシの難所をすぎて

第六十六番　巨鼈山雲辺寺

「はるばると雲の辺の寺にきて、月日を今は麓にぞみる」

亀山天皇の帰依深く、遺髪を収めた廟がある。次へ二里十五町。山門より六町で讃岐領。

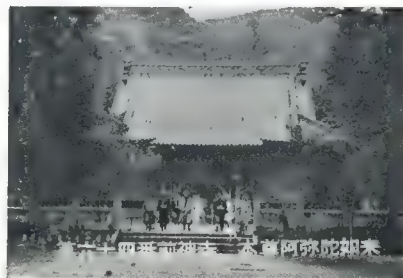
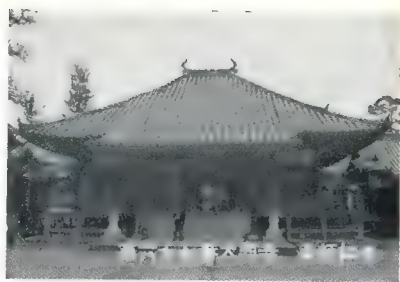
第六十七番　小松尾山大興寺

「植置し小松尾寺を眺むれば、のりの教の風ぞ吹きぬる」

嵯峨天皇の勅願寺。熊野の三所権現を鎮護する。石段の下に大師御手植という樟の大樹。次へ二里八町。琴弾山中腹へ。

第六十六番[illegible]

第六十八番神恵院　阿弥陀如来

第六十九番観音寺　[illegible]

第六十八番　琴弾山神恵院

「笛の音も松ふく風も琴ひくも、歌うも舞うも法の声ごえ」

本尊の画像は琴弾八幡宮の本地仏。大師が染筆奉祀したという。同境内に六十九番あり。

第六十九番　七宝山観音寺

「観音の大悲の力強ければ、重き罪をもひきあげてたべ」

神恵院と同境内、次一里六町。七宝山山腹に琴弾八幡の別当として勧請した。脚下の有明浜に寛永通宝の銭形がみえる。

日証上人が宇佐八幡を勧請した時、この山のほうに琴の音が聞えた。宇佐八幡の[illegible]て琴と神船を山頂に奉納。即ち第六十八番山号の縁起

第七十一番弥谷寺 千手観世音菩薩

弥谷寺の石壁に…という阿弥陀…

第七十一番　剣五山弥谷寺（けんござんいやだにじ）

「悪人とゆきつれなんも弥谷

第七十番　七宝山本山寺（しちほうざんもとやまじ）

「本山に誰が植えたる花なれや春こそたおれ手向にぞする」

本尊は馬頭観世音菩薩。昔西讃岐一帯の牛馬の売買には当寺住職の許可が必要だった。長曽我部軍の兵火を受けようとした時、蜂の大群が現われて寺を守ったという。ここから四里、大師生誕の地と称する海岸寺がある。次へ一里。

第七十二番曼荼羅寺　大日如来

第七十番本山寺　馬頭観世音菩薩

獅子霊巌に納めた…

寺、ただ仮初（かりそめ）の良き友ぞよき」

四百六十七の石段を上る。大師の御学問所。弥谷山の獅子霊巌で修法中に、五柄の剣が降ったという。次へ二十八町。

第七十二番　我拝師山曼荼羅寺（がはいしざんまんだらじ）

「僅かにも曼荼羅拝む人は唯（ただ）、再び三度、かえらざらまし」

もと世坂寺といった。大師の生家佐伯氏の菩提所。大同二年、大師は母の菩提のために両界曼荼羅を書写して埋めた。即ち寺号の縁起。次へ四町。

馬頭観世音に供えた草鞋

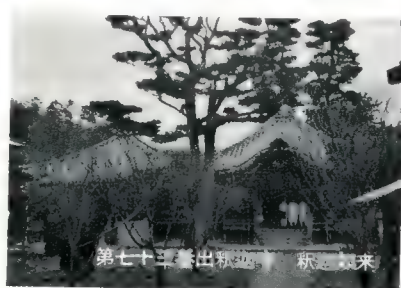
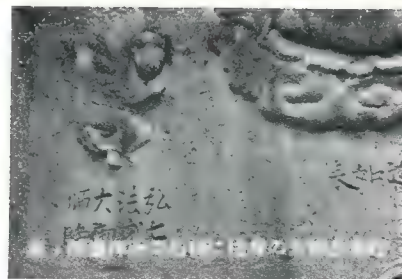
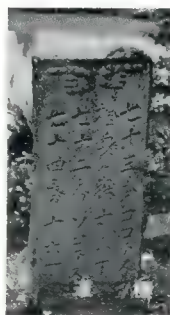
獅子霊巌の石窟の中で大師は…を修し…王権現忿怒威猛の形を表わして…

獅子霊巌は弥谷寺の大師堂，その入口には，ここまできてイザリの治った遍路が杖を供え，脳の治っ…が髪を…って大師様にお礼を申し上げている

第七十五番　屛風ヶ浦善通寺

「我すまばよも消果じ善通寺、深き誓の、のりのともしび」

大師が立教開宗の始の根本道場。真言宗総本山。御影堂の本尊弘法大師は日本唯一大師自作の尊像、瞬目大師という。ここも大師誕生地と称し、海岸寺と本家争いをし、文化十三年、嵯峨御所が善通寺を大師の父の邸、海岸寺を母の別荘と定めた。善通とは大師の父の名。四十町で金刀比羅宮。

我拝師山から[illegible]北方に丸亀市がみえる．[illegible]極氏六万石の旧城下．金比[illegible]の田[illegible]太郎の出生地．その[illegible]は第八十番国分寺附近とか

大師誕生善通寺説によれば、讃岐屛風ヶ浦に国造佐伯善通という人がいた、妻は玉寄御前といい、伊予親王の学士阿刀大足の妹、ある夜聖人飛び来りて懐に入る夢を見、宝亀五年六月十五日、大師誕生とある。善通寺の院号は誕生院。

第七十三番　我拝師山出釈迦寺

「迷いぬる六道衆生救わんと、尊き山に出づる釈迦寺」

我拝師山の右斜面。十六町奥に捨身ヶ岳。大師七歳、この断崖から捨身の行を修した時、釈尊身を現わして受取めた。

第七十四番　医王山甲山寺

「十二神味方にもてる戦には、おのれと心、かぶと山かな」

巡錫の大師に老翁告げて曰く、「此地に伽藍を建立すべし、我日夜監護せん」次へ十一町。

第七十六番　鶏足山金倉寺

「誠にも神仏僧を開くれば、真言加持の不思議なりけり」

寺境は印度の鶏足山を思わせる。日本で初めて訶利帝母が出現した地。弘法大師の甥、比叡山天台第五世座主智証はここで生れた。次へ三十五町。

第七十七番　桑多山道隆寺

「願をば仏道隆に入果てて、菩提の月を見まくほしさに」

和気道隆が桑の尊像を安置して開基。次へ一里三十一町。

第七十八番　仏光山郷照寺

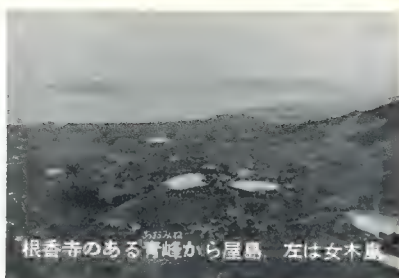
「踊りはね念仏唱う道場寺、拍子をそろえ鐘を打つなり」

以前は道場寺といったが、道隆寺と間違うので改名した。次へ一里二十町。街道を東へ。

第七十九番　金華山高照院

「十楽の浮世の中を訪ぬべし、天皇さえもさすらいぞある」

崇徳院崩御の時、柩を荼毘まで当寺に安置した。俗に天皇寺という。次は第八十番へ。

[illegible]お詣りの人数は伊勢大神宮に次[illegible]競うという

根香寺のある青峰から屋島　左は女木島

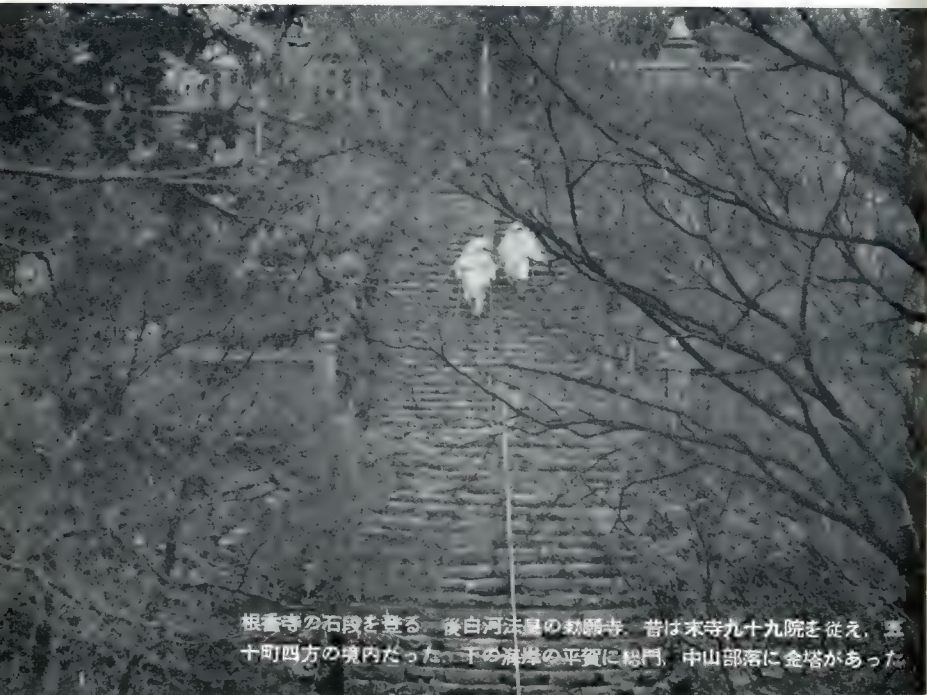
白峰寺の下から内海の塩飽諸島がみえる

第八十二番　青峰山根香寺

「宵のまの耐うる霜の消ぬれば、あとこそかねの勤行の声」大師が登山の折、香木に霊雲が漲り、市之瀬明神が出現した。八十番は地蔵尊へ打戻り。

第八十番　白牛山国分寺

「国を分け野山を凌ぎ寺々に、まいれる人を助けましませ」讃岐の国分寺。境内に金堂、七重塔の礎石がある。本堂の左の古木は乳の出るおまじない。八十一番へ急坂一里八町。

[illegible]

根香寺の石段を登る　後白河法皇の勅願寺　昔は末寺九十九院を従え，五十町四方の境内だった　下の海岸の平賀に総門，中山部落に金塔があった

[illegible]

八十番と八十一番との間には俗にオヘンロコロガシという難所があり、多くは七十九番から八十一番、八十二番と打ってから八十番へ出ている。

第八十一番　綾松山白峰寺

「霜さむく露白妙の寺のうち、み名をとなうる、法の声々」円珍和尚が白牛にみちびかれて入山し開基したところ。寺の裏には崇徳上皇の御陵がある。保元の大事ならず、白峰山に遷されたまま崩御された。

第八十番国分寺　千手観世音菩薩

第八十一番白峰寺　千手観世音菩薩

[illegible]千手観世音菩薩

一ノ宮寺の大師堂にも，イザリの腰が立ったしるしに箱車や松葉杖があげられ，カリエスのなおったお礼にギプスが壁にかけてあった

第八十三番　神毫山一ノ宮寺

「讃岐一ノ宮のみ前に仰きて、神の心を、誰れかしらいう」

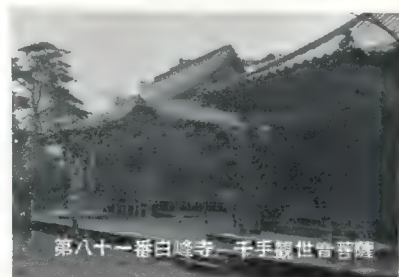
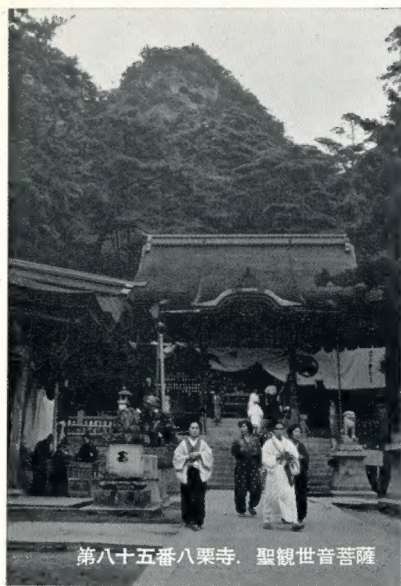
寺の左の田村神社は昔の讃岐一ノ宮。ここより一里三十五町。高野山讃岐別院。更に一里三十町。ケーブルで次へ。

第八十三番一ノ宮寺．聖観世音菩薩

第八十四番　南面山屋島寺

「梓弓、屋島の寺に詣でつつ祈をかけて、勇むもののふ」

もと北嶺に唐僧鑑真が開基。大師が南嶺へ移した。源氏軍が血刀を洗った血池がある。

南嶺をケーブルで，駅から十町余屋島寺

第八十四番屋島寺．千手観世音菩薩

八栗寺は五剣山にある

第八十五番　五剣山八栗寺

「煩悩を胸の智火にて八栗をば修行者ならで誰か知るべき」

大師はこの山の中腹に金剛蔵王の降した五柄の剣を埋め、五柄山と称した。入唐の際は求法の前効を試み、八個の焼栗を地中に埋めたが、帰朝後に発芽生長した。故に八栗寺という。五十番と雌雄を争う歓喜天がある。次へ一里二十八町。いよいよ道も都会地近くへ帰ってきた感が強くなる。

第八十五番八栗寺．聖観世音菩薩

一ノ宮寺より北へ，松平の城下町高松に入るころの左手に栗林公園　藩祖松平頼重の隠居所．六つの池，十三の小山を配した名園

第八十六番志度寺．十一面観世音菩薩．昔 志度浦の海上に瑞光を放つ霊木があった．若い仏師が現われ，これに菩薩像を彫り，「吾レハ補陀落山ノ観世音」と告げて去った．

第八十六番 補陀落山志度寺

「いざ然、今宵はここに志度寺、祈りの声を耳にふれつつ」

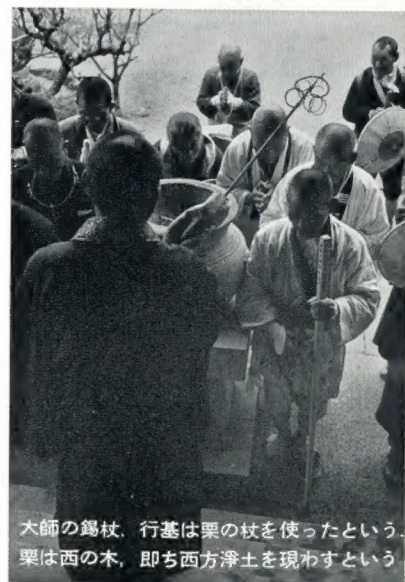
第八十七番 補陀落山長尾寺

「あし引の山鳥の尾の長尾寺、秋の夜すがらみ名を唱えて」

第八十八番 医王山大窪寺

「南無薬師諸病なかれと願いつつ、まいれる人は大窪の寺」

四国全土を三百有八十里、四百四の病悩、八十八趣の煩悩を散じつつ、札所巡りはようやくここで結願となる。本堂前の宝杖堂は、大師が行脚の錫杖を収めたところといい、結願したお遍路さんも金剛杖を納めるのが建前だが、再び順行する心あらば記念に持ち帰るも可。また無事結願したことを悦び、第一番霊山寺に御礼参りし、高野山に参拝、最後の結願するも可である。

「おんあぼきや、べいろしやなう、まかぼだら、まにはんどま、じんばら、はらばりたや、うん南無大師遍照金剛」

大師の錫杖．行基は栗の杖を使ったという．栗は西の木，即ち西方浄土を現わすという．

第八十七番長尾寺．聖観世音菩薩

結願．高野の山に身をとどめ救いのみ手を垂れ給う教えのみ親に帰依したてまつる．願わくは無明長夜の闇路を照して二仏出世の中間の我等を導びきたまえ

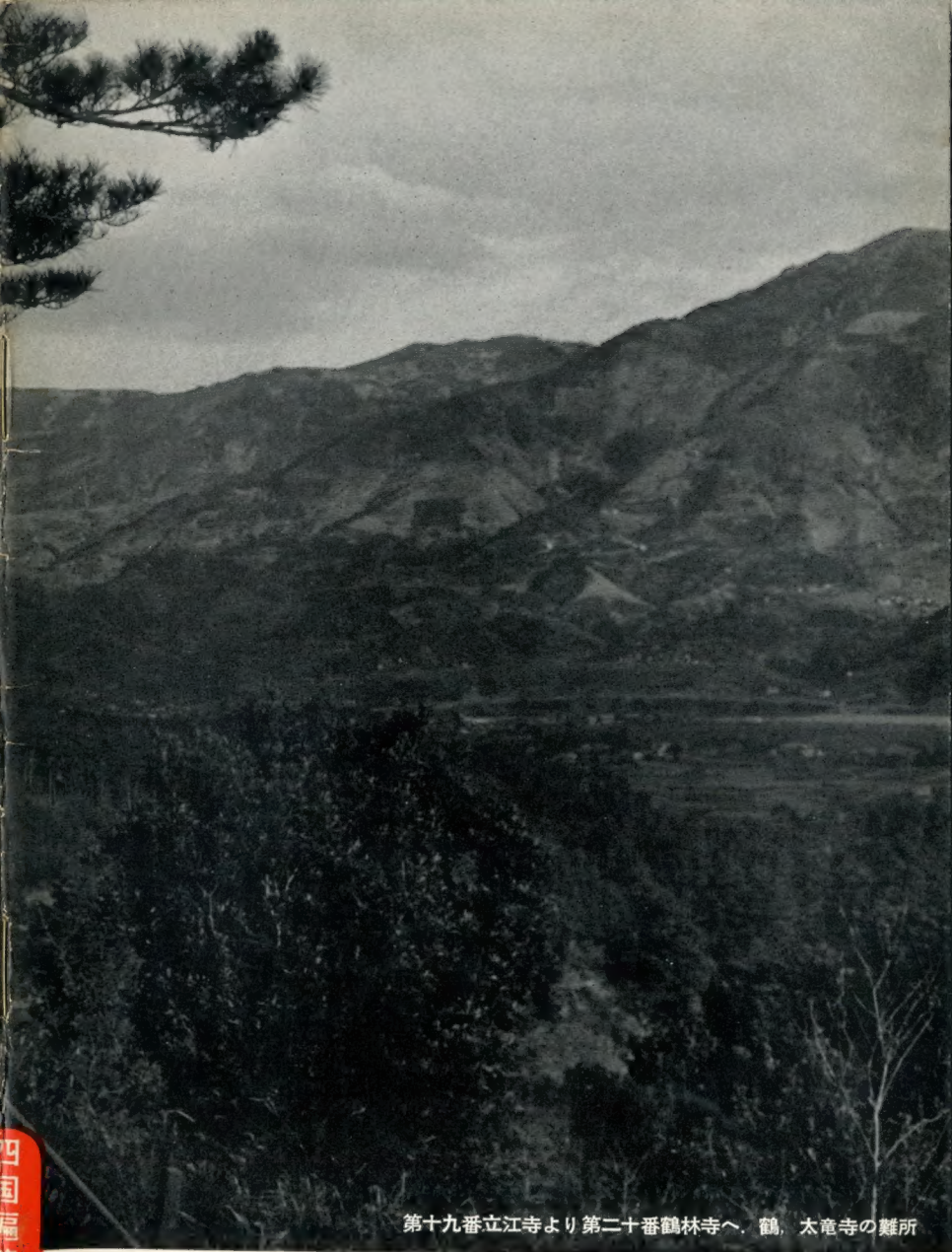
第八十八番大窪寺．本尊薬師如来

いま生死の海を渡り，解脱の彼岸に至る

岩波写真文庫目録

1*木綿
2 昆虫
3*南氷洋の捕鯨
4*魚の市場
5 アメリカ人
6 アメリカ
7 雪の結晶
8 写真
9 レンズ
10*紙
11 蝶の一生
12 鎌倉
13 心と顔
14 動物園のけもの
15 富士山
16 積雪
17 いかるがの里
18 鉄
19*川—隅田川—
20 雲
21 汽車
22*動物園の鳥
23 様式の歴史
24 銅山
25 スイス
26 スキー
27 京都—歴史的にみた—
28 力と運動
29 アメリカの農業
30 アルプス
31 山の鳥
32 奈良の大仏
33 尾瀬
34 電話
35 野球の科学
36 星と宇宙
37 蚊の観察
38 長崎
39 高野山
40 正倉院(一)
41 彫刻
42 仏像
43*化学繊維
44 蛔虫
45 野の花—春—
46 金印の出た土地
47*東京—大都会の顔—
48*馬
49*石炭
50 桂離宮と修学院
51 日光
52*醤油
53 文楽
54*水辺の鳥
55 米
56 正倉院(二)
57*石油
58 千代田城
59 歌舞伎
60 高山の花
61*波
62 京都御所と二条城
63 赤ちゃん
64*オーストラリア
65*ソヴェト連邦
66 能
67*造船
68 東京案内
69 平泉
70 手術
71 宮島
72 広島
73 佐渡
74 比叡山
75 阿蘇
76 信貴山縁起絵巻
77 針葉樹
78 近代芸術
79 日本の民家
80 季節の魚
81 シャボテン
82 新劇
83 郵便切手
84 かいこの村
85 伊豆の漁村
86 奈良—東部—
87 奈良—西部—
88 ヒマラヤ
89 上高地
90 電力
91 松江
92 動物の表情
93 金沢
94*自動車の話
95 薬師寺・唐招提寺
96 日本の人形
97*システィナ礼拝堂
98 美人画
99 日本の貝殻
100 本の話
101 戦争と日本人
102 佐世保
103 ミケランジェロ
104 空からみた大阪
105*宗達
106 飛驒・高山
107 ゴッホ
108 京都案内—洛中—
109 京都案内—洛外—
110*写楽
111 熊
112*東京湾
113 汽車の窓から—東海道—
114 地図の知識
115 姫路
116 硫黄の話
117 伊勢
118 はきもの
119 隠岐
120 源氏物語絵巻
121 農村の婦人
122 出雲
123*アルミニウム
—1955年10月8日—
124 水害と日本人
125 日本のやきもの
126*貝の生態
127 イスラエル
128 伴大納言絵詞
129 瀬戸内海
130 飛鳥
131 聖母マリア
132*日本の映画
133 能登
134 山形県
135 福沢諭吉
136*利根川
137 鹿児島県
138 伊豆半島
139 日本の森林
140 高知県
141 チェーホフ
142 仏教美術
143 一年生
144 長野県
145 塩原
146 日本の庭園
147 木曽
148 忘れられた島
149 近東の旅
150 和歌山県
151 函館
152 豆
153 大分県
154 死都ポンペイ
155 富士をめぐる—空から—
156 神奈川県
157 柔道
158 戦争と平和
159 ソ連・中国の旅—桑原武夫—
160 伊豆の大島
161 ジョットー
162 熊野路
163 鳥獣戯画
164 愛媛県
165 やきものの町
166 冬の登山
167 埼玉県
168 男鹿半島
169 フランス古寺巡礼
170 滋賀県
171 白浜
172 東京国立博物館
173 千葉県
174 箱根
175 細胞の知識
176 四国遍路
177 村の一年—秋田—
178 セザンヌ
179 石川県
180 琵琶湖
181 仏陀の生涯
182 香川県
183 日本
—1955年10月8日—
184*練習船日本丸
185 悲惨な歴史—ドイツ—
186 ボッティチェリ
187 東海道五十三次
188 離された園
189 松島
190 家庭の電気
191 アメリカの地方都市
192 五島列島
193 塩の話
194 パリの素顔
195 横浜
196 日系アメリカ人
197 インカ
198 奈良をめぐる—空から—
199 子供は見る
200 雪舟
201 東京都
202 アフガニスタンの旅
203 渡り鳥
204 群馬県
205 ブラジル
206 ルーヴル美術館
207 北海道(南部)
208 小豆島
209 日本
—1956年8月15日—
210 富山県
211 毛織物の話
212 北海道(東・北部)
213 自然と心
214 空からみた京都
215 世界の人形
216 愛知県
217 諏訪湖
218 鉄と生活
219 山口県
220 麦積山
221 北京
222 江南
223 四川
224 広州—大同
225 室蘭
226 山水画
227 三重県
228 白山
229 鵜飼の話
230 島根県
231 小さい新聞社
232 北海道(中央部)
233 近代建築
234 岡山県
235 ねずみの生活
236 札幌
237 日本
—1957年4月7日—
238 広島県
239 北陸路
240 倉敷
241 ギリシアの神々
242 長崎県
243 水郷—潮来—
244 福井県
245 秋吉台
246 子供の絵
247 徳島県
248 十勝平野
249 岐阜県
250 青森県
251 中国の彫刻
252 熊本県
253 秋田県
254 苫小牧
255 山梨県
256 新潟県
257 村と森林
258 茨城県
259 福島県
260 旭川・大雪山
261 大阪府
262 奈良県
263 北アルプスの山々
264 地形の話
265 静岡県
266 軽井沢
267 佐賀県
268 日本の社寺建築
269 宮崎県
270 十和田湖
271 福岡県
272 日本
—1958年正月—
273 宮城県
274 鳥取県
275 タイ
—学術調査の旅—
276 インドシナの旅
277 栃木県
278 屋久島・種子島
279 岩手県
280 地中海の史蹟めぐり
281 兵庫県
282 キリスト
283 京都府
284 インドの一断面
285 沖縄
286 風土と生活形態

*印は品切でございます

我昔所造諸悪業　皆由無始貪瞋癡
従身語意之所生　一切我今皆懺悔

第十九番立江寺より第二十番鶴林寺へ，鶴，太竜寺の難所

¥ 100